

【社会科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- ICT機器の活用により視覚的な学習や様々な体験的学習を行うことで、社会科における基礎的な知識の定着させることができた。
- 見学したり調べたりしたことを新聞等に表現する学習を通して、地域の特色や背景、人々の工夫について考察する力が付いてきた。
- △社会科における問題解決的な学習を定着させることを目指しているがまだ十分ではない。しかし、課題を追究したり、解決したりする活動が、社会参画の意識をもつことにつながり、社会的事象への関心・意欲が少しずつ高まってきた。引き続き、よりよい社会を考え、主体的に問題解決をしようという資質・能力を養うことを目指していく。
- △工業生産の仕組みの単元への関心が希薄になっている。

2 今年度の調査結果の分析と結果に基づく課題

	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
調査結果の分析	社会への関心・意欲・態度は、目標値を大きく上回っている。学年によっては、高い数値を示しており、社会への関心・意欲・態度が高いことが分かる。	社会的な思考・判断は、3学年全てで目標値を大きく上回った。特に5年生の消防の施設や設備や水の利用の仕方についての考察する力が高まっているなど、社会的な思考・判断・表現が高いことが分かる。	資料活用についての技能・表現は、3学年とも目標値を上回っている。グラフや地図からの確かな内容を選択できていることから観察・資料活用の技能・表現が高いことが分かる。	社会的事象についての知識・理解は、どの学年も目標値を大きく上回っている。しかし、6年生の工業生産の単元が昨年度と比較すると下がっているため、用語や語句の理解をさせる必要がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度よりも全体的に正答率は高くなっている。しかし、地図記号や方位など、内容によっては、学習の定着に個人差が見られるので、引き続き、基礎基本となる知識及び技能を身に付けさせる必要がある。 ・いくつかの資料から必要な情報の収集や活用方法を具体的に理解する時間を、短時間でも毎時間のように確保する必要がある。(表題・縦軸・横軸・年代・出所など) ・体験的な学習やICT機器を使って得た情報を、日常生活や学習場面で繰り返し確認できるように意図的に場面を設定し、各学年で習得すべき基礎的な知識の定着を図る必要がある。 			

3 授業の具体的な改善策

教科目標	<p>新学習指導要領の教科の目標</p> <p>社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 社会的事象の特色や相互の関係、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことを選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</p> <p>(3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。</p>
全体	<p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p> <p>社会的事象から学習問題を見だし、その解決への見通しをもって取り組めるように学習計画を立てる。それには、学習対象に関する関心を高めるために児童に提示する資料を精選する。また、問題意識をもつようにさせるとともに、予想したり、学習計画を立てたりして、追究・解決方法を検討することと、学習したことから新たな問題を見いだしたりすること、さらに学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に活かしたりすることができるようにする。</p> <p>・学習過程を通じた様々な場面で児童相互の話し合いや討論などを充実させる。また、実社会で働く人々から話を聞く活動を行うことで、児童が様々な視点を身に付け、社会的事象の特色や意味などを多角的に考えさせる。</p>
学年段階別改善策	
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・見学等体験的な活動を多く取り入れ、区や都の様子に関心をもち、意欲的に調べられるようにする。(関心・意欲・態度) ・習った地図記号を実際に地図上に記入し、見やすい地図を作成したり、地図から情報を読み取ったりする活動を設定する。(思考・判断・表現) ・資料の標題と資料のどの部分に着目するのかを関連付けて指導する。資料の標題を見て最初に捉えるべき内容について繰り返し指導して、読み取りの基本を習慣付ける。(観察・資料活用の技能) ・単元が終わった後も、地名や国名、重要な語句についてマイブックを作成してまとめるなどの活動を取り入れる(知識・理解)
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・資料やICT機器(動画)などを効果的に取り入れて、実際に行くことのできない工場の生産の工程、人々の協力関係、技術向上などについて着目させて、調べられるようにする。(関心・意欲・態度) ・学習で得た知識を確実に定着させるために、授業の最後に用語やキーワードを使って、ワードブック等にまとめる活動を行う。(知識・技能) ・様々な資料を関連付けて読み取る学習を意図的に行う。資料の題名から大事な情報を正しく、それらを合わせてどんなことが分かるのか、どのように表現すればよいのかを考えさせる学習を行う。(思考・判断・表現)